

察した。

質問 中島春美 (佼成病院)

Leucemia に Cytomegalo virus の関連が考えられているが, Cytomegalic inclusions disease の合併例を見た方はありますか。

解答 四家正一郎

白血病ビールス説ですが, ある種のビールスが検出され, 封入体が見いだされたという報告もありますが, 私どもは経験ありません。

質問 有益座長

先天性白血病の診断はむづかしいが, どの時点でそれを診断されたか?

解答 関 泰男 (川鉄病院)

入院時 Down 症候群の顔貌より白血病の合併が多いこと, 末梢血で白血球数が 10 万を越え, 幼弱型が 68% であることから白血病を疑いました。

解答

末梢血検査および肝脾腫を確認した時点で先天性白血病を疑いました。

また先天性白血病と Down 症候群との関係については西村先生は先天性白血病を見たら Down 症候群の精査をすべきであり, また逆に Down 症候群を見たら骨髓穿刺を含めて血液像を精査すべきであると主張しております。

質問 (久保教授に) 有益座長

Down 症候群と白血病の関係は昔からいわれていたのでしょうか。

解答

戦前は両者の関係は注目されることはなかった。戦後になり悪性 Tumor に Down を合併する例があることから, 染色体検索が行なわれ, 合併例が発見され, 注目されるようになった。

36. 急性骨髄性白血病に対するピンクリスチンの使用経験

○小松幹司, 横山 宏, 竹内 豊,
古屋征毅 (山梨県立中央)

急性骨髄性白血病の女児 2 名, 緑色腫の女児 1 例に「ピンクリスチン」を使用して, 良好な成績を得た。

一般状態, 末梢血液, 骨髄像はすみやかに改善したが, 1 例については緩解後約 2 カ月で髄膜炎症状を呈してきた。これは多分脳髄膜への白血病細胞浸潤に対して, 「ピンクリスチン」が効果のないためであろうと思われる。

副作用としては重篤なものはなかったが, 全例に脱毛

が見られた。

37. 急性白血病長期生存例の検討

四家正一郎 (東邦大・大橋病院)

最近白血病の長期生存例が注目されるようになり, 10 年内外の生存例の報告も散見され, 完全治癒の望みなきに非ずとの印象を深くしている。演者は目下観察中の 4 例につき検討を加えた。いずれも初診日より 1 年半ないし 2 年の症例で, 年齢は 4 才半ないし 8 才半である。第 1 例は 6 MP, Betamethasone にて 1 カ年にわたり完全緩解し, Vincristine にて再び緩解した例。

第 2 例は Prednisolone 大量 (5 mg/kg) 投与にて 6 カ月間完全緩解し, Vincristine により再び緩解した例。第 3 例は「前白血病状態」(赤芽球増多) にて来院し, 4 カ月後白血病症状出現, 6 MP, Prednisolone にて完全緩解し, 再び Vincristine さらに methotrexate にてそれぞれ緩解した例, 第 4 例は単に 6 MP, methotranate 交替療法で約 2 年間全く再発しない例である。大部分の症例は骨髓芽球が単球様に変動したり, 時には Peroxydase 陰性のものが陽性化したり, 多様の細胞学的変化を示したが, 治療法の検討のほかに宿主側の要因 (生体側の個体差) が重大であるという印象を得ている。いずれもさらに観察続行中である。

38. 仮称川崎氏病と若干異なる病像を呈した症例 (3 例)

渡辺三郎, ○溝口 勝 (太田総合病院)

症例 1, 2 才 5 カ月, 女児。浸出性扁桃腺炎で初発し, 川崎氏病の主症状のほかに, 四肢小関節の有痛性紡錘状腫脹と皮膚の知覚過敏があり, レ線 upper に異常はなく, 猩紅熱またはリウマチ熱を疑った。

症例 2, 11 カ月, 女児。急性消化不良症状で初発し, 川崎氏病の主症状のうちで, 眼球結膜の充血と頸部リンパ腺の腫脹はなく, 末血では白血球増多が強 (39000) く, かつ, 幼若細胞が 3~4% みられ, 病初, 白血病を疑った。

症例 3, 1 才 1 カ月男児。感冒症状が初発し, 高熱は 2 日。腋窩, 鼠径部, 頸部などより全身に広がる潮紅と大小水疱の出現。衣服などに触れて容易に剝皮。ニコルスキー現症陽性。手掌足蹠の変化は最後に出現し, 水疱内容から, 細菌は検出されず, Ritter 氏病, または Lyell 氏病を疑った。

質問 石井誠一 (東京厚生年金病院)

いわゆる仮称川崎氏病の中に落屑の全くない症例があったかどうか教えてください。

解答 川崎富作 (日赤中央)

指趾先からの定型的な落屑の伴わない症例は, 原著 50 例中 1 例のせてありますが, 本症では例外的と考えてよいと存じます。

追加 川崎富作 (日赤中央)

①ご発表の症例中, 指関節が紡錘状を呈した症例は関節炎と考えてよく, 本症に関節炎の伴われることはすでに報告してあります。

②球結膜充血のない症例はきわめてまれではありますが, 原著に 1 例入れてあります。

③水泡形成, ニコルスキー現象陽性例を本症に入れることは問題があります。このような症例の取扱いは, ほかの疾患の移行型, つまり Toxic epidermal necrolysis や, Stevens-Johnson 症候群の移行型または Overlap 例として, 本症の本態論のためにも, ぜひ記載しておいていただきたいと存じます。

他の症例との Overlap または移行の問題についての推論は治療 (昭和 43 年 9 月号 “皮, 粘, 眼症状を呈する疾患” アンケート) にシエーマを書いておきましたから, ご参照下さい。

39. 急性熱性皮膚粘膜リンパ腺症候群の爪の変化について

○川崎富作, 窪田誠一 (日赤中央)

私どもは急性熱性皮膚粘膜リンパ腺症候群に爪の変化を伴った 10 例を経験した。すなわち, 昭和 41 年度および 42 年度にはおのおの 1 例ずつしか気付かなかったが, 昭和 43 年に第 3 例目を経験してから, この爪の変化に注目して各症例を follow up したところ, 43 年度には本症 11 例中 8 例 (約 73%) に何らかの爪の変化が認められた。以上の 10 例を従来の方法で分類すると第 1 型 (爪甲脱落および不全型) 8 例, 第 2 型 (爪甲線状白斑) 1 例および第 3 型 (爪甲剥離) 1 例であるが, 各型は相互に混在することがある。この爪の変化に気付く時期は, 発病後 40 日から 60 日前後が最も多く, 早くて約 1 カ月, 遅い例では発病後約 4 カ月を経て来院した例も 1 例あった。私どもは昭和 43 年度の経験から本症では, よく注意して follow-up すれば, (退院時母親によく爪の異常のことを説明しておいて, 気付いたら来院させるようにする。) 本症の特徴である皮膚の指趾末端病変の一つとして爪の変化を伴う症例が意外に多いのではないかと推定された。

40. 異型麻疹の 1 例

○伊藤純一 (川口工業東部)
齊藤裕康, 佐藤 彰 (千大)

麻疹 K ワクチン 2 回接種 10 カ月後に自然麻疹に罹患し異常経過をとった 2 才 10 カ月の男児例について報告した。突然 40°C 以上の高熱をもって発病し, 第 2 病日に多数の紅斑状および斑状丘疹状の発疹が足背部より出現し, 後発疹は全身に広がり一部点状出血がみられた。胸部レ線像上肺炎像を認めたが, 聴打診上異常所見はみられなかった。高熱は 6 日間持続して後解熱し, 発疹も徐々に消退した。麻疹の血中中和抗体価は第 5 病日すでに 2048 倍以上の高値を示し, 持続した。補体結合抗体価は 5 病日 32 倍, 14 病日 64 倍, 26 病日 256 倍以上ときれいな上昇を示し, 異型麻疹の血清学的診断における補体結合抗体測定の有用性を示唆しているものと思われた。

KKL 法, KKK 法などによる麻疹予防接種をうけた者に対する L ワクチン追加接種の必要性について述べた。

40. 異型麻疹の 1 例に追加

○石井誠一 (東京厚生年金)
浅利行男 (練馬区)

2 年 4 カ月の女児で K ワクチン 2 回接種約 1 年後に麻疹患児と接触する機会を持った。13 日後より 2 日間の Prodromal Fever に続いて四肢より始まる petechial, maculopapular rash が出現し同時に 39~40°C に体温が上昇した。rash はしだいに顔面, 軀幹部に及び, 特に以前 K ワクチンを接種したと思われる gluteal lesion に強かった。

その間肺炎の併発を見ている。全身状態はかなり障害されたが有熱期間 7 日間で, その後は軽快を見た。

検査所見では W.B.C. は 8,600 differential count に特に変化はないが, Eosino 5%, Virocyten 1% であった。C.R.P. 6(+), L.D.H. 525 (単位) で高値であったほかは特記すべきものはなかった。その間 H.I.A. は Pair で 64×~128× に上昇した。比較的典型的経過をたどった異型麻疹の 1 例を追加した。

41. 抗生物質と抗真菌療法の併用について

○中島春美, 相沢 昭, 忍足美代子,
木下敏子 (佼成病院)

抗生物質, 特に広範囲スペクトラムの使用により交代菌現象を起こし, Candida albicans による Candida 症や, 直菌の Overgrowth を起こすといわれているので, これを検討し, かつ抗真菌剤 Amphotericin B を